

# 高齢者負担増を考える

## ②日本の社会保障は本当に高齢者優遇なのか

政府は75歳以上の窓口負担を現在の1割から2割へと引き上げることを決めた。高齢者負担増をどう考えるべきか。佐久大学特任教授の唐鎌直義氏に連載で解説してもらおう。(全6回)



開発機構は社会支出を9分野に細分化している。そこで高齢・遺族・保健の3分野を「高齢関連分野」とし、それ以外の6分野を「貧困関連分野」として2大別し、政府の言うように日本の社会保障は高齢者優遇型なのかどうか検証してみる。貧

日本の社会保障は、実質的に今もスウェーデンの2分の1、フランスの3分の2のレベルである。OECD(経済協力

困関連分野については次回詳しく述べる。

政府が日本の社会保障を「高齢者優遇型」と理解しているのには理由がある。それは、構成比の表(下)を見ることである。

2大分野別にみた国民1人当り社会支出の国際比較(2015年)

国	高年齢関連				貧困関連	合計
	高年齢	遺族	保健	小計		
米 国	4646	478	1万178	1万5302	2541	1万7843
スウェーデン	7328	260	5074	1万2662	8930	2万1592
フランス	6646	898	4612	1万2155	4713	1万6868
ドイツ	4648	1030	4992	1万670	4543	1万5213
英 国	4293	30	4558	8881	4445	1万3326
日 本	5086	609	3743	9438	1588	1万1026

国	高年齢関連				貧困関連	合計
	高年齢	遺族	保健	小計		
米 国	26.0	2.7	57.0	85.8	14.2	100.0
日 本	46.1	5.5	33.9	85.6	14.4	100.0
フランス	39.4	5.3	27.3	72.1	27.9	100.0
ドイツ	30.6	6.8	32.8	70.1	29.9	100.0
英 国	32.2	0.2	34.2	66.6	33.4	100.0
スウェーデン	33.9	1.2	23.5	58.6	41.4	100.0

\* 各分野の金額は、各分野の支出率に計を乗じて算出した。各分野の支出率に関するデータは、国立社会保障・人口問題研究所社会保障費用統計 ([http://www.ipss.go.jp/ss-cost/j/fsss-h29/fsss\\_h29.asp](http://www.ipss.go.jp/ss-cost/j/fsss-h29/fsss_h29.asp)) 参照。

### 「優遇」は日本政府の幻想

しかし、構成比ではなく1人当り社会支出額の表(上)を見ると、全く違う側面が明らかになる。小計の欄に示されているように、日本の高年齢関連分野への1人当り社会支出は6カ国中5位(9438ドル)に止まる。最下位の英国(8811ドル)よりは上というレベルである。胸を張って「高齢者優遇型」と呼べるほどのレベルではない。中身を検討すると、遺族分野(遺族年金)と高年齢分野(老齢年金と介護)が6カ国中3位で、まあ

### むしろ拡充こそ

こうした背景のもとに、コロナ禍による医療崩壊が全国的に生じるに至った。平時の医療体制(病床数、スタッフ数)を極限まで合理化してしまうと、未知の感染症が発生するなど突発的な事象が生じた際に、医療現場は大混乱に陥る。医療供給体制をどうして支えているのがエッセンシャル・ワーカーと呼ばれる医師・看護師・保健師・その他の医療スタッフの善意と命がけの医療活動である。繰り返される危機的状況を前に、医療政策に関して些かも修正しようとせず、

「高齢者優遇型」の社会保障というのは、井の中の蛙である日本政府が抱く一人よがりの幻想に過ぎない。したがって、高齢者関連の社会保障を削減することは全くの誤りで、むしろ拡充することこそが現下の優先課題なのである。



# コロナ禍と女性たち

ジャーナリスト・松元 ちえ  
女性による女性のための相談会実行委員会

## 最終回

### 生活保護が最後の砦

コロナ禍が女性に及ぼした影響とその背景について、東京都での「女性による女性のための相談会」開催の中心になっているジャーナリスト松元ちえ氏(写真)に連載してもらおう(4回連載)。

連載最後の回に、新宿歌舞伎町で出会ったひろみさん(仮名、50代)を紹介したい。

ひろみさんは、数年前におよぶネットカフェ生活を通して、同じ状況下の知り合いもできた。みな、歌舞伎町で客をとって生計を立てていた。

ところがコロナ禍で飲み屋が時短営業を強いられ、ひろみさんも同業の若い

女性たちに付き添って来るようになった。相談員から協力を得て生活保護の申請を済ませた仲間が相次いでアパートに落ち着くのを見て、生活保護に消極的だったひろみさんも申請を決断。

年齢を考えると、今後収入が増えることはない。日々のネットカフェ代や食費の心配をする生活は精神的にも厳しくなるため、20年近く続けた性風俗の仕事の辞めようと思うと相談があった。

もともと母親が暴力的

だったため、早くに家を出た。婚約もしていたが、母親のせいで破談。そのあとは性風俗にまっしぐらだった。傍から見たら犯罪かもしれないが、生活のためならやるしかない、とひろみさん。

「昨年は捕まったこともある。警察官からは遊びか生活のためかと聞かれた。『他の仕事ができな

いから、生活するためにやっていると。ネットカフェ難民なんです」と言っていた。いいイメージはないけれど、こそそしたくない。仕方がないから、それでも年末には、もう助けてもらう

のも手かなと考えるようになった。

支援者も同行してもらって、生活保護は無事1週間受給が確定した。申請決定の早さにひろみさんは驚きを隠せないでいた。仲間内やインターネット上では、生活保護の申請には施設に1カ月以上入所することや素行観察などが必要など、観念などが溢れていたから。

「そんなに早く生活保護が受けられるようになったのかと、みんなびっくりしている」

生活が安定してから真先に行動したのは、30年ほど疎遠になっていた病院通いだった。婦人科に

始まって、歯科、内科、整形外科など毎週のように検査や治療を受けている。多少、心配な診断も受けたが、通院が続けられることと定期検診を受けられることが救いだ。

ただそれ以上にひろみさんが喜んだのは、身分証明書が取得できたこと。居住実態がない自治体で自分の住民票が削除されていたため、銀行口座も開設できず認印も持ったことがなかったのだ。

生活保護の受給が決まってから7カ月後、ひろみさんから一報が入った。住民票が復活し、身分証明書も取得。自分義の銀行口座を開設した

という。『やっど人間として認められた気がする』。少しずつ権利を実現していったひろみさんは、いま普通の仕事を始めてみよつかと就職活動中だ。

権利を示し伴走すること

パラリンピックで視覚障害を持つランナーが、伴走者とゴールのテープを切る場面を見た。自分の権利を知らされていない女性たちに伴走し、必要な時に必要な権利を示し、助言を続け、喜びも悔しさも共にする――。

と、女性たちが必要とする支援のあり方を示しているようだった。

## 患者さんが知ってトクする!

### 医療・介護・税金の負担軽減策

医療費や暮らしの負担を軽減できるさまざまな制度の活用法を紹介したパンフレット。保団連が作成し、医療機関での活用や患者さんへの普及を呼び掛けています。「高額療養費制度が活用を患者さんに案内でき、喜ばれた」などと好評の声が届いています。ぜひ待合室に置いてご利用ください。

ご注文は所属の協会・医会まで

